

東南アジアにおける生薬の比較研究

(第I報)

——シンガポールの中薬(1)——

新 田 あ や*・吉 田 集 而*

The Comparative Study of Crude Drugs in Southeast Asia I **——Chinese Crude Drugs in Singapore (1)——**

by

Aya NITTA and Shuji YOSHIDA

本稿から始まるシリーズの主な目的は、東南アジアにおいて、現在どのような生薬が使用されているかを明らかにすることである。また、問題のある生薬に関しては各市場品の比較研究を行なうとともに、各市場でみられる生薬を一つのセットと考え、それぞれの生薬群を比較検討し、おのおのの特徴を抽出することである。そのため、まず東南アジア各地で使用されている生薬を各市場ごとに記載することから始める。

本稿は、1971年5月から6月にかけて約40日間、東南アジア各地、主にシンガポールおよびマレーシアを中心に生薬の市場調査を行なった際に得た中国系生薬（以下中薬と記す）約2300点、インド系生薬約300点のうちシンガポールで収集した中薬の一部246点の基原植物について考察したものである。

東南アジア市場の生薬に関する報告は、これまでほとんどみられないが、1930年に D. Hooper がマラヤの中薬について調査し、*Gardens' Bulletin* にまとめて報告している。そこに記載された中薬は全部で456点で、そのうち植物性生薬415点（基原不明のもの17点を含む）、動物性生薬20点、および鉱物性生薬12点が報告されている。また最近のものでは、木島正夫氏のタイ生薬についての報告がある〔東南アジア研究、5(1), 182-194(1967), 6(2), 165-174(1968), 6(3), 169-179(1968), 7(1), 76-96(1969), 7(3)391-411(1969), 7(4), 582-599(1969)〕。そこに記載されたものは、種子類生薬35点、果実類生薬24点の合計59点で、今後の報告が待たれる。これまで報告されたタイ生薬は、すべて中薬にもみられるもので、このように同一薬物が異なった医学体系の中で使用されていることは興味深い。

* 京都大学薬学部生薬学教室

さて、シンガポールは90%以上を中国人がしめる都市であり、それ故に生薬の中心は中薬である。著者らは、生薬および食品の貿易商“益興貿易公司 (Yak Heng Trading Co.)”の紹介によって、シンガポールでは比較的大きい中薬の小売店“黄徳祥 (Ng Teck Sian) 薬行”で取り扱っているほとんどすべての品目を入手した。ただし麝香、蟾酥、鹿茸、人參、牛黄などの高価な生薬で比較的良好その基原の知られたものは除外した。常用、稀用あわせて621点であった。

これらの生薬の記載順序は、「葯材学」の用部別の順序に従ったが、これは整理の便宜を考えたにすぎない。今回は、茎・材類50点、皮類21点、根茎類55点、根類120点を取りあげる。用部別の分類法は、原則として生薬の性状そのものにしたがうことにした。ただし、茎、葉、根などの混合しているもので「葯材学」に記載のあるものは「葯材学」の用部別分類に従った。記載のないものに関しては、どの用部に入れるか問題のあるものがあり、特に茎・材類と根類の分類がむずかしく、たとえば、木本性の生薬でカットされたものは、地上部か地下部かの判断が困難なものがあつたり、また藤本性のものでは根から茎まで含まれていたりする。そこで、材類または根茎類であると明瞭に判断できないものは、いちおう根類に入れ、明瞭に判断できるもので根や茎の混合している場合はその量の多い用部の項に入れた。なお、用部別の中では、Engler の分類順に記載した。

生薬の基原については、まずその生薬名から該当するものを文献に求め、文献記載の性状と比較照合した。この際、基本文献として「葯材学」を使用した。「葯材学」をはじめとする中薬関係の文献に該当するものを求めたとき、異名同物、同名異物あるいは生薬名の一字違い（小売店の経営者が広東省出身者のためか、異字同音のものがあてられている可能性が高いと考えられる。）などがたびたびみられた。また、全く該当する記載のない中薬も予想外に多くみられた。さらに文献により、同一生薬名のものに異なった基原があげられていることも少なくなかった。これらの生薬の産地を知ることができれば、基原の推定はより容易になるが、中薬の商業機構の末端である小売店ではその種の正確な情報は得がたく、基原に関してなお問題を残しているものもある。このように文献記載の性状と比較照合して、ほぼ一致するものはそれらの文献の基原を採用した。文献に生薬名があっても性状が異なる場合、および文献にその生薬名すらないものに関しては、その生薬の性状から基原を推定し、その学名から文献と照合した。

基原不明のものは学名のかわりにその特徴を簡単に記すとともに、写真を付しておいた。このような不明の生薬および正確な基原の解明については、今後の研究に課せられた大きな問題であり、各方面の御教示を仰ぎ解決したいと考えている。

茎・材類生薬

A. 材類生薬

No.	生薬名	基 原	備 考
S 21	油 松 節	<i>Pinus tabulaeformis</i> Carriere* <i>P. massoiana</i> Lambert* [Pinaceae]	
S 22	檀 香 柴	<i>Santalum album</i> L.* [Santalaceae]	葯材学では檀香。
S 23	苏 木 柴	<i>Caesalpinia sappan</i> L.* [Leguminosae]	葯材学では苏木。
S 24	降 真 香	<i>Acronychia pedunculata</i> (L.) Miquel* [Rutaceae]	
S 25	沉 香	<i>Aquilaria agallocha</i> Roxburgh* <i>A. sinensis</i> Merrill* [Thymelaeaceae]	水に浮く。

*は葯材学による学名

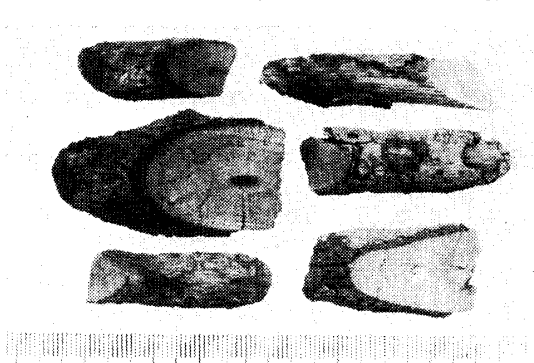
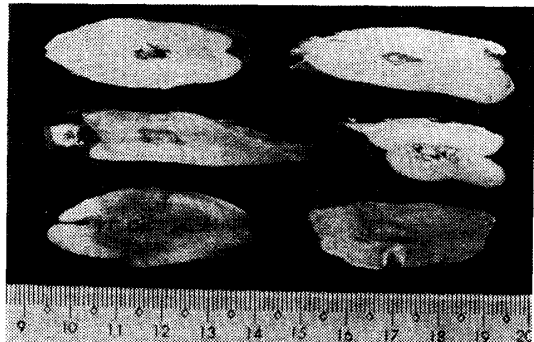
茎・材類生薬

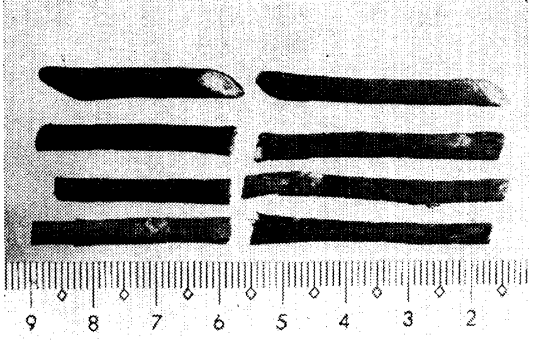
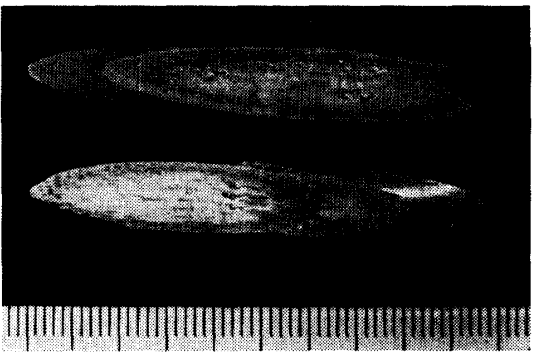
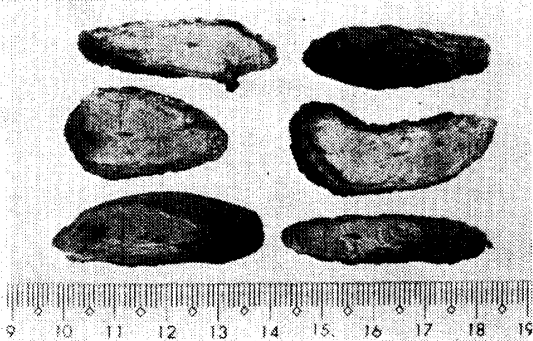
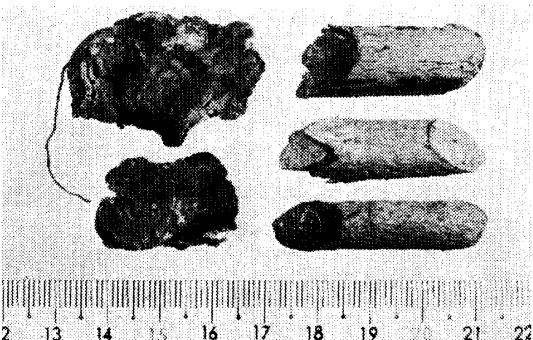
B. 茎類生薬

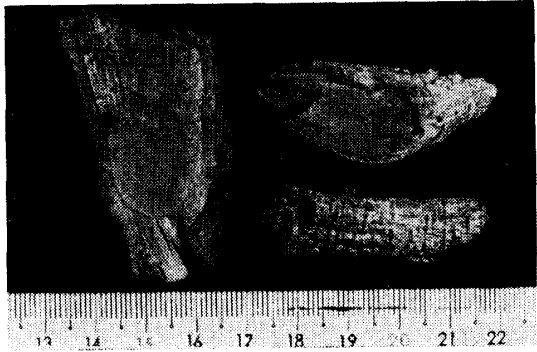
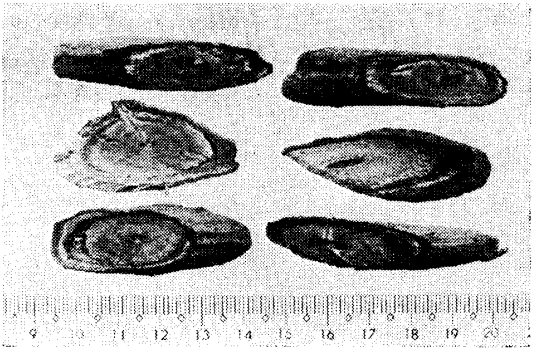
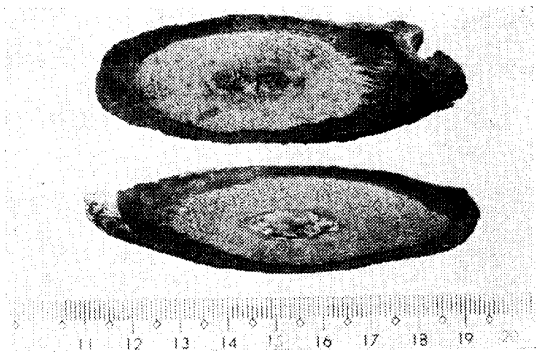
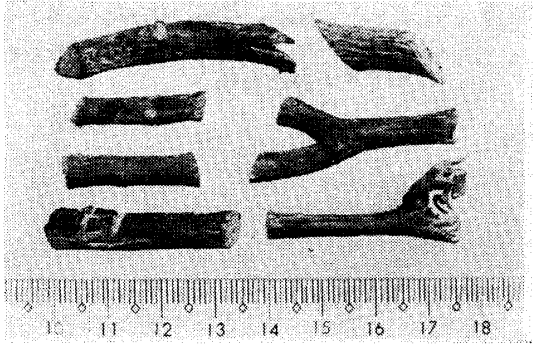
No.	生薬名	基 原	備 考
S 1	桑 枝	<i>Morus alba</i> L.* [Moraceae]	
S 2	正 寄 生	<i>Viscum colaratum</i> Nakai* [Loranthaceae]	葯材学の槲寄生にはほぼ一致する。
S 34	桃 寄 生†	<i>Loranthus paracitites</i> (L.) Merr* [ﾏ ﾞ]	葯材学の桑寄生にはほぼ一致する。
S 4	海 風 藤	<i>Hocqurtia manshuriensis</i> Nakai* [Aristolochiaceae]	葯材学によれば江苏、徐州産の木通の商品名、木通の基原として <i>Akebia</i> , <i>Clematis</i> 属がある。
S 5	夜 勾 藤	<i>Polygonum multiflorum</i> Thunb.* [Polygonaceae]	葯材学では夜交藤。
S 3	淮 木 通	<i>Clematis montana</i> Buch-Ham. ex DC	常用中草药手冊では淮通。
S181	黄 藤 根†	<i>Arcangelisia loureiri</i> (Pierre) Diels [Menispermaceae]	常用中草药手冊の黄連藤に一致する
S164	清 風 藤	<i>Sinomenium acutum</i> (Thunb.) Rehd. et Wils. [ﾏ ﾞ]	中葯志 Vol III.
S 29	寛 筋 根 藤	<i>Tinospora sinensis</i> (Lour.) Merr.* [Menispermaceae]	葯材学の寛筋藤にはほぼ一致する。
S 28	桂 皮	<i>Cinnamomum cassia</i> Blume* [Lauraceae]	
S 33	千 下 槌†	<i>Lindera chiunii</i> Merr. [ﾏ ﾞ]	常用中草药手冊の千打錘にはほぼ一致する。
S 6	石 南 藤	<i>Photinia serrulata</i> Lindl.* [Rosaceae]	
S176	金 英 根† (S175と同名)	<i>Rosa laevigata</i> Mich.? [ﾏ ﾞ]	G. B. (Gardens' Bulletin) では英根、用部は根であるが本品は枝。
S 7	皂 刺	<i>Gleditsia sinensis</i> Lam.* [Leguminosae]	
S547	鸡 骨 草†	<i>Abrus cantoniensis</i> Hance* [ﾏ ﾞ]	
S 9	鸡 血 藤	<i>Millettia reticulata</i> Benth.* [ﾏ ﾞ]	
S166	牛 大 力† (S165と同名)	<i>Millettia speciosa</i> Champ.? [ﾏ ﾞ]	常用中草药手冊による。
S472	椿 根 藤	<i>Ailanthus altissima</i> (Mill.) Swingle [Simaroubaceae] (or <i>Cedrela sinensis</i> Juss. [Meliaceae])	葯材学で椿は <i>Ailanthus</i> , C. M. M. (Stuart : Chinese Materia Medica) では <i>Cedrela</i> 属。
S482	観 音 串†	<i>Tamarix chinensis</i> Lour.* [Tamaricaceae]	葯材学の観音柳にはほぼ一致する。
S 11	鎖 阳	<i>Cynomorium coecineum</i> L.* [Cynomoriaceae]	阳は陽の略字、葯材学では鎖陽。
S 13	鳥 不 企	<i>Aralia decaisneana</i> Hance [Araliaceae]	常用中草药手冊。

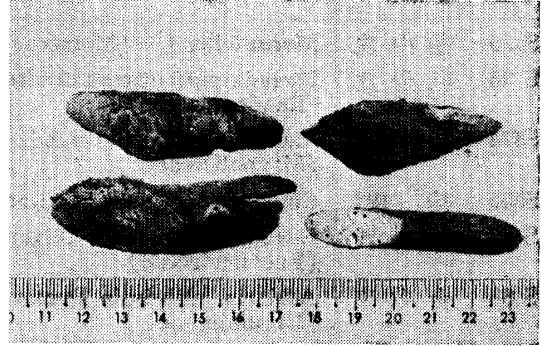
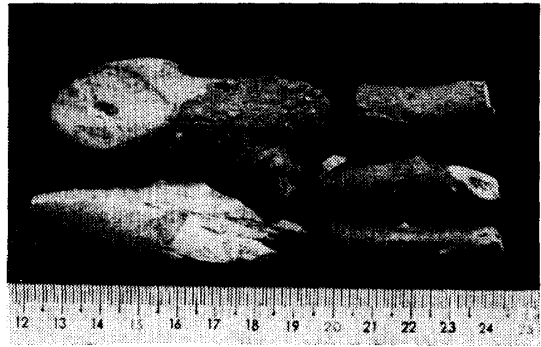
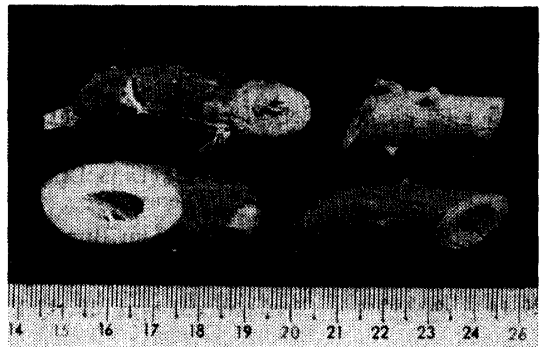
†は稀用

No.	生薬名	基 原	備 考
S 12	白 通 草	<i>Tetrapanax papyrifera</i> (Hook.) K. Koch* [Araliaceae]	葯材学では通草。
S 14	絡 石 藤	<i>Trachelospermum jasminoides</i> (Lindl.) Lemaire* [Apocynaceae]	
S 15	菰 蓉	<i>Cistanche salsa</i> Benth. et Hook. f.* [Orobanchaceae]	葯材学では肉菰蓉。
S 16	勾 藤	<i>Uncaria rhychophylla</i> (Miq.) Jackson* <i>U. sinensis</i> (Oliver) Haviland* [Rubiaceae]	葯材学では鈎藤。
S 17	忍 冬 藤	<i>Lonicera japonica</i> Thunb.* [Caprifoliaceae]	
S484	九 里 明†	<i>Senecio scandens</i> Buch-Ham. [Compositae]	常用中草药手冊。
S 31	蒼 耳 根	<i>Xanthium sibiricum</i> Patrin. [ﾏ ﾞ]	ﾏ ﾞ
S 18	竹 茹 絲	<i>Phyllostachys nigra</i> var. <i>henonsis</i> Stapf. ex Rendle* <i>P. reticulata</i> K. Koch* [Gramineae]	葯材学では竹茹。
S 19	灯 心 花	<i>Juncus effusus</i> L.* [ﾏ ﾞ]	葯材学では灯心草。
S 20	金 石 斛	<i>Dendrobium</i> sp.* [Orchidaceae]	葯材学記載のどの種にも一致しない が、性状から同属異種植物と推定さ れる。

No.	生薬名	性 状	
S 26	川 馬 胎	木片，外皮かっ色，縦じわがあ り，皮部濃かっ色，木部は黄かっ 色で，ずい線明りょう。 写真1 川馬胎	
S 27	蘇 梗	木質，外皮かっ色，皮部薄く，木 部灰黄色，ずいがある。蘇梗（シ ソの茎）とは同名異物。 写真2 蘇 梗	

No.	生薬名	性状	
S 30	毛将軍	草質円柱茎，外表灰黄色，綿毛密布，ずいは白色で大，根混入，ずい線明りょう。 写真3 毛将軍	
S 32	官母壳†	単子葉植物茎？ 外表は黄白色で光沢があり，ずいは白く大きい。 写真4 官母壳	
S167	武靴藤	木質，木部に導管小孔を有し，ずいはかっ色で小，皮部は剝離しやすく，せんい性，苦い。 写真5 武靴藤	
S178	當年根† (S177と同名)	木質，外皮，断面とも赤かっ色，ずいは暗かっ色で小，S177 とは同名異物。 写真6 當年根	

No.	生 薬 名	性 状	
S180	風 不 動†	木質，外皮灰かっ色，皮孔横紋がある。皮部はやや厚く，木部は黄かっ色で導管小孔顕著。 写真 7 風不動	
S469	血 皮 根	木質，外皮かっ色，縦紋および皮孔小点がある。皮部濃色，木部橙かっ色，年輪様模様。 写真 8 血皮根	
S470	地 風 根	木質，外皮かっ色，縦紋および皮孔小点がある。皮部濃かっ色，木部に導管小孔顕著。 写真 9 地風根	
S478	玉 吐 根†	草質，外皮かっ色で深い縦溝，木部黄白色で導管小孔顕著，柔らかく折れ難い。 写真10 玉吐根	

No.	生薬名	性 状	
S481	菊公猫†	木質，外皮かっ色，有刺，木部灰黄色，年輪および導管小孔顕著，根も混入。 写真11 菊公猫	
S548	大刺头†	木質，S13 鳥不企に類似するが，刺小さく鋭い，木部黄白色，ずい大。 写真12 大刺头	
S549	珍珠癭†	木質，S548 大刺頭に酷似，皮部，刺，木部およびずいなどほとんど同じ。 写真13 珍珠癭	
S609	扭肚草†	木質茎および葉，外表紫かっ色，縦紋。葉は革質有鋸歯と全縁で厚いものの2種。寄生？ 写真14 扭肚草	

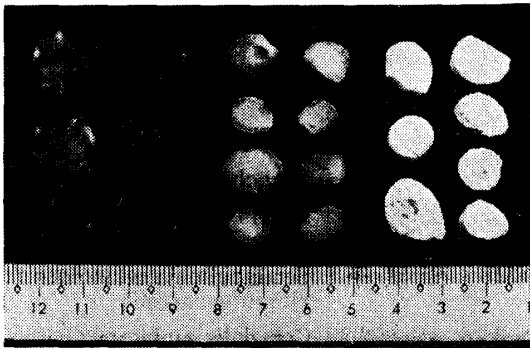
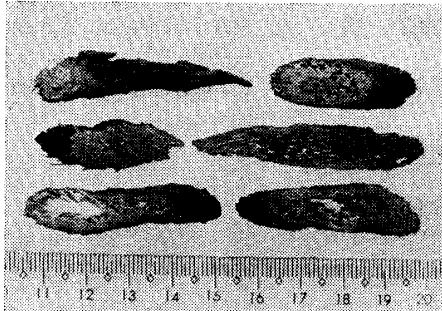
皮 類 生 薬

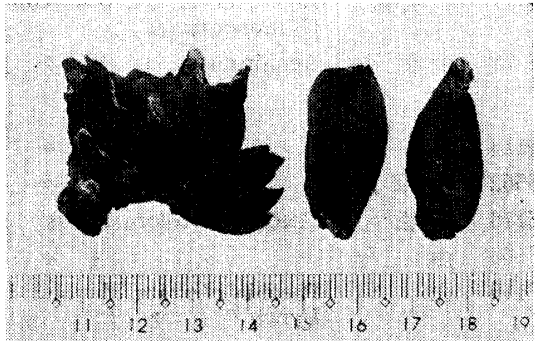
No.	生 薬 名	基 原	備 考
S 35	桑 白 皮	<i>Morus alba</i> L.* [Moraceae]	
S 36	牡 丹 皮	<i>Paeonia suffruticosa</i> Andrew* [Ranunculaceae]	
S474	川 朴 根†	<i>Magnolia officinalis</i> Rehd. et Wilson* [Magnoliaceae]	薬材学では川朴。
S550	桂 皮†	<i>Cinnamomum</i> sp.* [Lauraceae]	樹皮だけでは種名の同定は困難
S 37	杜 仲	<i>Eucommia ulmoides</i> Oliver* [Eucommiaceae]	
S 38	合 欢 皮	<i>Albizia julibrissin</i> Durazzini* [Leguminosae]	
S 39	海 桐 皮 (飲 片)	<i>Erythrina indica</i> L.* [〃]	縦切薄片。
S551	海 桐 皮 (生)	〃 [〃]	
S 40	黄 栢	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.* <i>P. sachalinense</i> Sargent* [Rutaceae]	薬材学では黄栢。
S 46	白 朮 皮	<i>Dictamnus dasycarpus</i> Turcz.* [〃]	薬材学では白鮮皮。
S 48	檉 白 皮 (飲 片)	<i>Ailanthus glandulosa</i> Desf. (= <i>A. altissima</i> (Mills) Swingle) [Simaroubaceae] or <i>Cedrela sinensis</i> Juss. [Meliaceae]	檉白皮と春根皮は混同されている。 C. M. M. によれば本草で既に基原が混同されているとの記載がある。
S553	白春根皮 (生)	〃 [〃]	
S 47	春 根 皮 (飲 片)	<i>Betula utilis</i> D. Don var.? [Betulaceae]	G. B. によれば樺皮, 樺の中国音 “Hua” は <i>Ailanthus</i> である。
S552	檉 白 皮 (生)	〃 [〃]	
S129	远 志	<i>Polygala tenuifolia</i> Willd.* [Polygalaceae]	
S 49	川 加 皮	<i>Acanthopanax setchuensis</i> Harms* [Araliaceae]	
S 45	鴨 脚 皮	<i>Schefflera octophylla</i> (Lour.) Harms [〃]	常用中草药手冊の鴨脚木の樹皮と推定した。
S 42	葵 树 皮	<i>Fraxinus bungeana</i> DC.* <i>F. rhynchophylla</i> Hemsl.* [Oleaceae]	薬材学では葵皮。
S 41	五 加 皮	<i>Periploca sepium</i> Bunge* [Asclepiadaceae]	
S 43	地 骨 皮	<i>Lycium chinense</i> Mill.* [Solanaceae]	
S 44	金 鸡 纳 皮	<i>Cinchona calisaya</i> Weddell* <i>C. redgeriana</i> Moens* <i>C. succirubra</i> Pavon* [Rubiaceae]	樹皮だけで種を決定することは困難。

根 茎 類 生 薬

No.	生 薬 名	基 原	備 考
S 50	金 狗 背	<i>Cibotium barometz</i> (L.) J. Smith* [Dicksoniaceae]	薬材学では金毛狗背。
S 51	碎 骨 補	<i>Drynaria fortunei</i> (Kuntze) J. Smith* [Polypodiaceae]	薬材学では骨碎補。
S 52	大 黄	<i>Rheum</i> sp.* [Polygonaceae]	
S191	金 重 楼†	<i>Polugonum bistorta</i> L.* [〃]	薬材学では重楼。
S 53	藕 節	<i>Nelumbo nucifera</i> Gaertn.* [Nymphaeaceae]	

No.	生薬名	基 原	備 考
S554	両頭尖†	<i>Anemone raddeana</i> Regel* [Ranunculaceae]	薬材学の九節菖蒲に一致する。 薬材学では升麻。S54 升麻片は同名異物。
S 69	川 昌 芙	<i>Anemone altaica</i> Fischer* [〃]	
S 55	川 升 麻	<i>Cimicifuga foetida</i> L.* [〃]	
S 56	黄 連	<i>Coptis teeta</i> Wallich* <i>C. chinensis</i> Franchet* [〃]	
S 57	凤 尾 蓮	<i>Coptis anemonifolia</i> Sieb. et Zucc. [〃]	
S318	天 葵 子	<i>Semiaquilegia adoxoides</i> (DC) Makino* [Ranunculaceae]	
S 58	元 胡	<i>Corydalis ambigua</i> (Pallas) Chamisso et Schlechtendal* <i>C. bulbosa</i> DC* [Papaveraceae]	
S 59	山 豆 根	<i>Menispermum dauricum</i> DC* [Menispermaceae]	
S 60	川 芎	<i>Ligusticum wallichii</i> Franch* [Umbelliferae]	
S 61	羌 活	<i>Notopterigium incisium</i> Ting* <i>N. forbesii</i> Boissier* [〃]	
S555	川 羌 活	〃 [〃]	飲片。
S 63	番 胡 連	<i>Picrorrhiza kurroa</i> Royle* [Scrophulariaceae]	生。
S 64	甘 松	<i>Nardostachys chinensis</i> Batalin* [Valerianaceae]	薬材学では胡黄連。
S 65	茅 蒼 朮	<i>Atractylodes lancea</i> (Thunb.) DC* [Compositae]	飲片。
S556	茅 蒼 朮	〃 [〃]	生。
S 66	白 朮	<i>Atractylodes macrocephala</i> Koidz.* [〃]	
S 98	一 舍	<i>Alisma Plantago-aquatica</i> L. var. <i>orientale</i> Samuelsson* [Alismataceae]	薬材学の澤瀉に一致する。飲片。
S557	泽 舍	〃 [〃]	生。S 98と同じもの。
S483	芦 竹 根†	<i>Phragmites communis</i> (L.) Trinius* [Gramineae]	薬材学では蘆根。
S 67	毛 根	<i>Imperata cylindrica</i> (L.) Beauvois var. <i>major</i> (Nees) Hubbard* [Cyperaceae]	薬材学では白茅根。
S 62	三 稜 片	<i>Scirpus yagara</i> Ohwi* [〃]	薬材学では荆三陵。
S 68	四 香 附	<i>Cyperus rotundus</i> L.* [〃]	薬材学では香附子。
S 70	石 昌 芙	<i>Acorus gramineus</i> Solander* [Araceae]	
S 72	南 星	<i>Arisaema ambiguum</i> Engler* <i>A. japonica</i> Bl.* [〃]	
S463	胆 星	<i>Arisaema ambiguum</i> Engler* <i>A. japonica</i> Blume* [〃]	特殊加工された南星。
S 73	上 半 夏	<i>Pinellia ternata</i> Breiter* [〃]	特殊加工された半夏で、飲片は透明。 (写真15)
S 74	半 夏	〃 [〃]	飲片。 (写真15)
S 95	法 下 茶	〃 [〃]	S 73とは異なる加工の半夏、飲片。 (写真15)

No.	生薬名	基	原	備	考
		写真15 左から 上半夏, 半夏, 法下茶			
S 75	知母片	<i>Anemarrhena asphodeloides</i> Bunge* [Liliaceae]			
S 76	玉竹	<i>Polygonatum officinale</i> Allioni* [〃]		飲片。	
S559	玉竹条	〃 [〃]		生。	
S 77	土茯苓	<i>Smilax glabra</i> Roxb. var. <i>concolor</i> (C. H. Wright) Wang et Tang* [〃]			
S 78	正川貝	<i>Fritillaria royle</i> Hook.* [〃]		葯材学では川貝母。	
S 79	浙貝母	<i>Fritillaria verticillata</i> Willdenow var. <i>thunbergii</i> Baker* [〃]			
S 80	百合	<i>Lilium brownii</i> F. E. Brown var. <i>colchesteri</i> * [〃]			
S 81	天仙茅†	<i>Curculigo orchoides</i> Gaertn.* [Hypoxidaceae]		葯材学では仙茅。	
S 82	淮山	<i>Dioscorea batatas</i> Decaisne* [Dioscoreaceae]		葯材学の山薬で淮河地方産。	
S 83	川卑亥	<i>Dioscorea tokoro</i> Makino* [〃]		葯材学では草薢。	
S 84	川射干	<i>Belamcanda chinensis</i> (L.) DC* [Iridaceae]		葯材学では射干。	
S 85	香三奈	<i>Kaempferia galanga</i> L.* [Zingiberaceae]		葯材学では三奈。	
S 86	莪朮片	<i>Curcuma zedoaria</i> (Berg.) Roscoe* [〃]		飲片。	
S558	莪朮	〃 [〃]		生。	
S 87	姜黄	<i>Curcuma longa</i> L.* [〃]			
S 88	北干羌	<i>Zingiber officinale</i> Roscoe* [〃]		葯材学では干姜。	
S 89	老薑皮	〃 [〃]		S 88 北干羌の皮部と考えられる。	
S 90	高良姜	<i>Alpinia officinarum</i> Hance* [〃]			
S 91	新白芨	<i>Bledilla striata</i> (Thunb.) Reichenbach f.* [Orchidaceae]		葯材学では白芨。	
S 92	天麻	<i>Gastrodia elata</i> Bl.* [〃]			
S 93	千年健	<i>Homalonema sagittataefolia</i> Jungh? [Araceae]		葯材学では原植物不詳。中葯志による。	
		写真16 千年健			

No.	生薬名	性 状	
S573	漳黎芦†	鱗茎，色はかっ色～黒かっ色で2～5枚重なり，質は硬いが折れやすい。ユリ科植物？ 写真17 漳黎芦	

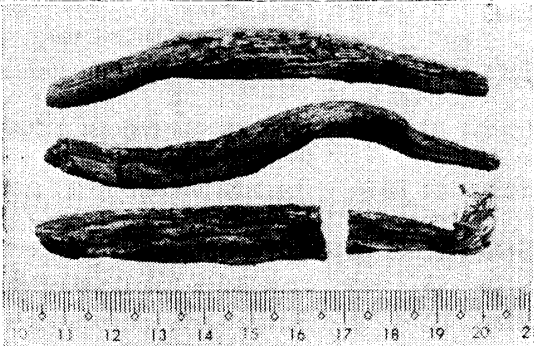
根 類 生 薬

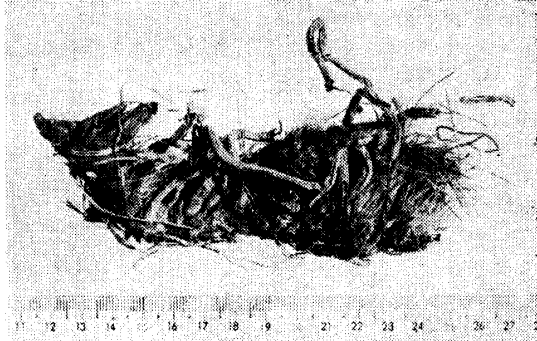
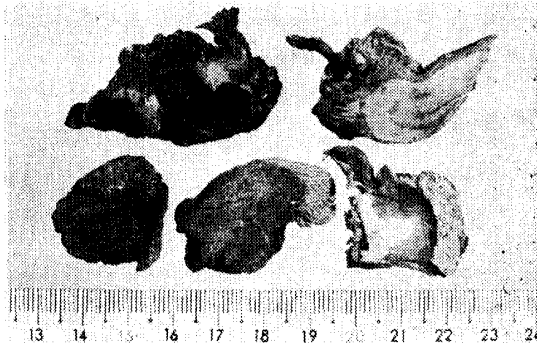
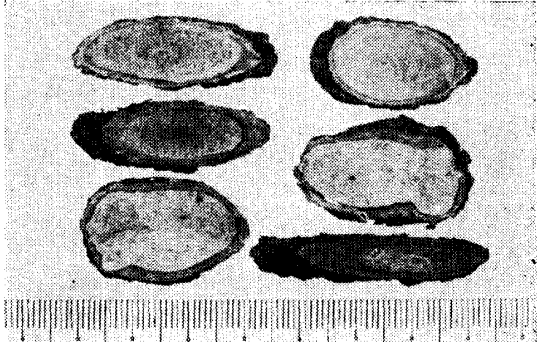
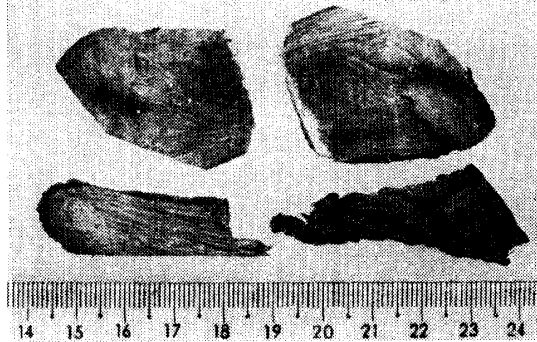
No.	生薬名	基 原	備 考
S170	麻黄根	<i>Ephedra sinica</i> Stapf [Ephedraceae]	常用中草药手冊。
S188	胡椒根	<i>Piper</i> sp. [Piperaceae]	Glossary of Indian Medicinal Plants
S476	榕樹根†	<i>Ficus microcarpa</i> L. [Moraceae]	常用中草药手冊。
S100	白苧根†	<i>Boehmeria nivea</i> (L.) Gaud.* [Urticaceae]	葯材学では苧麻根。
S185	川破石	<i>Cudrania cochinchinensis</i> (Lour.) Kudo et Masam. [Urticaceae]	常用中草药手冊の穿破石にほぼ一致する。
S101	細 辛	<i>Asarum heterotropoides</i> Fr. Schmidt var. <i>mandschuricum</i> (Maxim.) Kitag.* [Aristolochiaceae]	本品類似生薬は形状にしたがい全草に入れた。
S102	首烏片	<i>Polygonum multiflorum</i> Thunb.* [Polygonaceae]	葯材学では何首烏，加工方法がいろいろある。
S103	首烏(塊)	〃	S102よりもさらに炭化した状態。
S560	首烏(生)	〃	生。
S104	杜牛七	<i>Achyranthes bidentata</i> Bl.* [Amaranthaceae]	葯材学の牛膝にほぼ一致する。杜は地名か？
S106	淮牛七	〃 [〃]	
S105	川牛七	<i>Cyathula capitata</i> Miq. [Ranunculaceae]	
S107	商 陸†	<i>Phytolacca esculenta</i> Van Hout.*? [Phytolaccaceae]	
S108	銀柴胡	<i>Stellaria dichotoma</i> L. var. <i>lanceolata</i> Bunge* [Caryophyllaceae]	
S109	威 灵 仙	<i>Clematis chinensis</i> Osbeck* [Ranunculaceae]	
S111	附 子 片	<i>Aconitum chinensis</i> Paxton* [〃]	附は加熱，猛毒のため減毒加工法が最も多い。
S112	克 附 子	〃 [〃]	克は減毒の意。
S113	川 烏	〃 [〃]	烏頭，附子および天雄はすべて <i>Aconitum</i> の根。
S561	生川烏	〃 [〃]	
S115	天 雄	<i>Aconitum chinensis</i> Paxton* [Ranunculaceae]	
S116	明 天 雄	〃 [〃]	

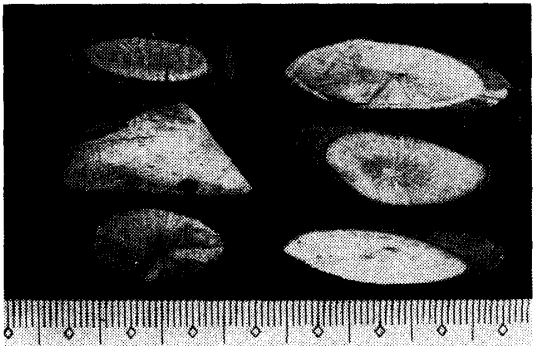
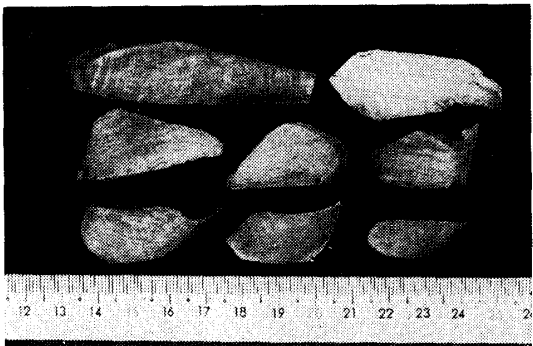
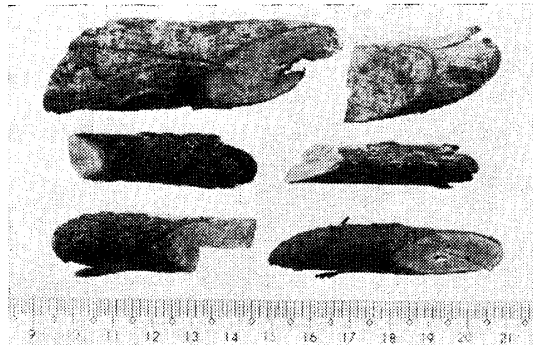
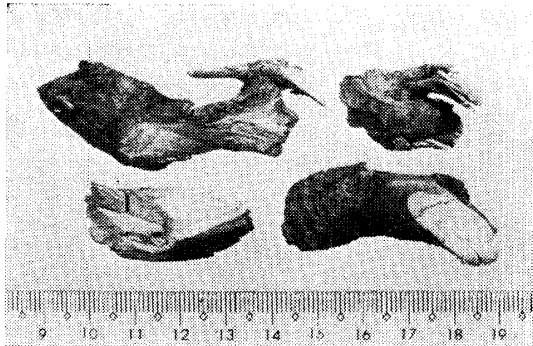
No.	生薬名	基 原	備 考
S117	克天雄†	<i>Aconitum chinensis</i> Paxton* [Ranunculaceae]	葯材学の白附子は <i>Typhonium giganteum</i> Engler, [Araceae] であるが本品は同名異物。
S 71	白 附 子	<i>Aconitum</i> sp.* [〃]	
S114	草 烏	〃 [〃]	
S562	生 草 烏	〃 [〃]	飲片。 生。
S118	杭 白 芍	<i>Paeonia lactiflora</i> Pallas* [〃]	
S563	白 芍	〃 [〃]	
S119	赤 芍	<i>Paeonia obovata</i> Maxim.* <i>P. veitchii</i> Lynch.* [〃]	葯材学では漢（漢の略字）防己。
S120	汗 防 己	<i>Stephania tetrandra</i> S. Moore* [Menispermaceae]	
S128	台 烏 薬	<i>Lindera strychnifolium</i> Villars* [Lauraceae]	
S121	萊 菔 壳	<i>Raphanus sativus</i> L.* [Cruciferae]	葯材学では萊菔根。
S477	藍 盤†	<i>Isatis tinctoria</i> L.*? [〃]	葯材学では板藍根。
S122	常 山 片	<i>Dichroa febrifuga</i> Lour.* [Saxifragaceae]	G.B. の英根に一致する。
S123	地 榆 根	<i>Sanguisolba officinalis</i> L.* [Rosaceae]	
S175	金 英 根 (S176と同名)	<i>Rosa laevigata</i> Mich. [〃]	
S124	苦 参 根†	<i>Sophora flavescens</i> Aiton* [Leguminosae]	葯材学では葛根。
S125	干 葛	<i>Pueraria pseudo-hirsuta</i> Tang et Wang* [〃]	
S127	黄 芪	<i>Astragalus mongholicus</i> Bunge* [〃]	
S126	甘 草	<i>Glycyrrhiza uralensis</i> Fischer* [Leguminosae]	常用中草葯手冊。S 166 とは同名異物。
S165	牛 大 力 (S166と同名)	<i>Millettia speciosa</i> Champ. [〃]	
S187	橄 欖 根	<i>Canarium album</i> Raeush [Burseraceae]	C.M.M.
S182	黄 皮 根	<i>Clausena Wampi</i> Oliver [Rutaceae]	G.B.
S467	白 椿 根	<i>Cedrela sinensis</i> [Meliaceae]	C.M.M.
S564	狼 毒 片†	<i>Euphorbia fischeriana</i> Stendel* [Euphorbiaceae]	常用中草葯手冊。 常用中草葯手冊では余柑子。
S565	製甘遂†	<i>Euphorbia kansui</i> Lion* [〃]	
S 8	鶏 骨 香	<i>Croton crassifolius</i> Geisel [〃]	
S479	柚 柑 根†	<i>Phyllanthus emblica</i> L. [〃]	G.B. の和尚頭に一致する。 G.B. の川槿皮に一致する。 生薬名から推定。 数等級あった。
S130	白 斂 片†	<i>Ampelopsis japonica</i> (Thunb.) Makino* [Vitaceae]	
S174	蒲 黄 头†	<i>Hibiscus trionum</i> L. [Malvaceae]	
S183	芙 蓉 根†	<i>Hibiscus rosae-sinensis</i> L. [〃]	生薬名から推定。 数等級あった。
S574	石 榴 根†	<i>Punica granatum</i> L. ? [Punicaceae]	
S131	洋 参	<i>Panax quinquefolium</i> L.* [Araliaceae]	
S132	防 風 (飲片)	<i>Ledebouriella seseloides</i> Wolff.* [Umbelliferae]	〃 [〃]
S621	防 風 (生)	〃 [〃]	
S133	明 党 参	<i>Changium smyrnioides</i> Wolff.* [〃]	

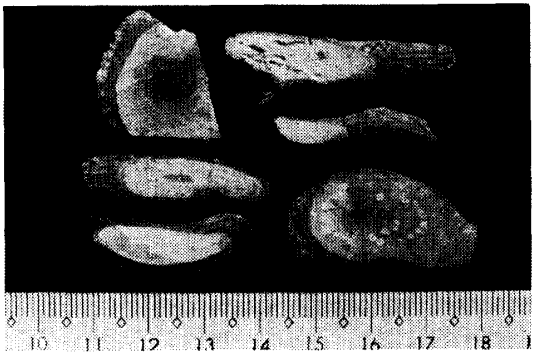
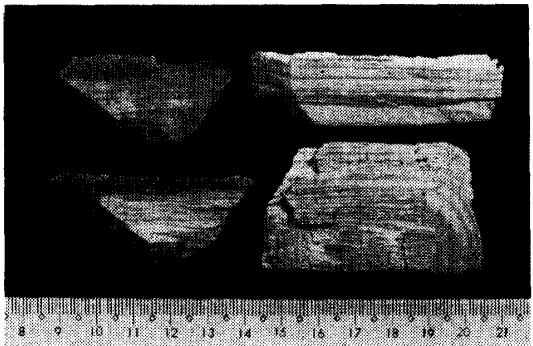
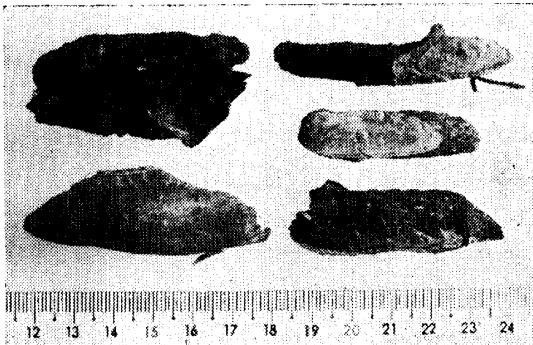
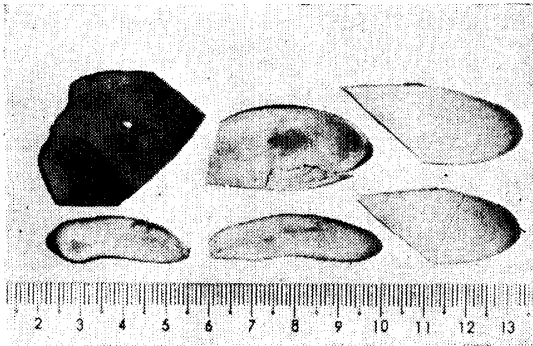
No.	生薬名	基 原	備 考
S134	柴 胡	<i>Bupleurum falcatum</i> L.* [Umbelliferae]	
S566	上海 竹柴胡	<i>Bupleurum chinense</i> DC* [〃]	
S135	北沙参	<i>Glehnia littoralis</i> Fr. Schmidt* [〃]	
S136	川高木 (飲片)	<i>Ligusticum sinense</i> Oliver* [Umbelliferae]	
S567	川蒿本 (生)	〃 [〃]	
S137	独 活 (飲片)	<i>Heracleum hemsleyanum</i> Mich.* [〃] <i>Angelica pubescens</i> Maxim.*	
S568	川独活 (生)	〃 [〃]	
S138	香白芷 (飲片)	<i>Angelica dahurica</i> (Fischer) Benth. et Hook.* [〃]	
S569	白芷(生)	〃 [〃]	
S140	当归片	<i>Angelica sinensis</i> (Oliver) Diels* [〃]	
S141	当归頭 (生)	〃 [〃]	2～3等級あった。
S142	当归尾 (生)	〃 [〃]	
S139	前 胡 (飲片)	<i>Peucedanum praeruptorum</i> Dunn* [〃]	
S570	前 胡 (生)	<i>Peucedanum praeruptorum</i> Dunn* [Umbelliferae]	
S143	竜胆草	<i>Gentiana scabra</i> Bunge* [Gentianaceae]	
S144	秦 艽 (飲片)	<i>Gentiana macrophylla</i> Pallas* [〃]	薬材学では秦艽。
S571	川秦艽 (生)	〃 [〃]	〃
S145	白前根	<i>Cynanchum stauntoni</i> (Decais.) Hand. Mazz.* [Asclepiadaceae]	薬材学では白前，S 572 白微根と混同される。
S572	白眉根 (微)	<i>Cynanchum atratum</i> Bunge* [〃]	薬材学では白薇。
S169	馬鞍藤	<i>Ipomoea pes-caprae</i> Roth. [Convolvulaceae]	常用中草药手冊。
S468	白茄根	<i>Solanum dulcamara</i> L. and other spp. ? [Solanaceae]	G.B. の茄根か？
S146	紅丹参	<i>Salvia mitiorrhiza</i> Bunge* [Labiatae]	
S149	黄 芩	<i>Scutellaria baicalensis</i> Georg.* [〃]	
S147	元 参	<i>Scrophularia ningpoensis</i> Hemsl.* [Scrophulariaceae]	
S148	生 地	<i>Rehmannia glutiosa</i> (Gaerth.) Libos.* [〃]	
S150	紅大戟†	<i>Knoxia valerianoides</i> Thorel* [Rubiaceae]	
S151	巴 戟	<i>Morinda officinalis</i> How* [〃]	薬材学では巴戟天。
S152	紅茜根	<i>Rubia cordifolia</i> L.* [〃]	薬材学では紅茜草。
S189	入骨丹	<i>Rubia</i> sp. [〃]	G.B. の人骨丹に一致する。人は入の誤字か？
S153	続 断	<i>Dipsacus japonicus</i> Miq.* [Dipsacaceae]	
S179	川花朴	<i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim.* [Cucurbitaceae]	薬材学では天花粉。

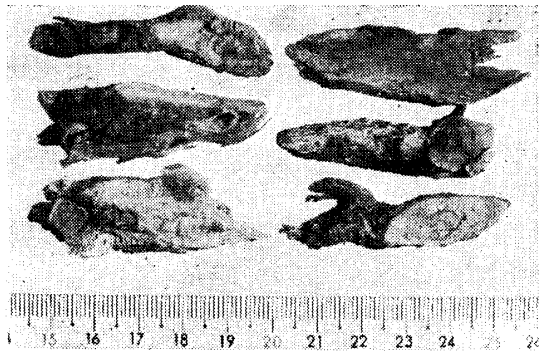
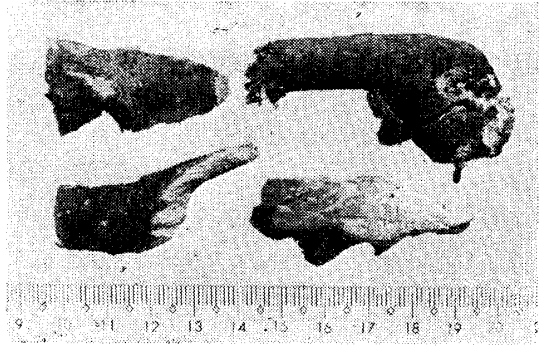
No.	生薬名	基 原	備 考
S154	南沙参	<i>Adenophora stricta</i> Miq.* [Campanulaceae]	
S155	桔梗	<i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) DC* [〃]	
S156	潞党参	<i>Codonopsis pilosula</i> Nannf.* <i>C. tangschen</i> Oliver* [Campanulaceae]	
S159	防党 (飲片)	<i>C. tangschen</i> Oliver [〃]	G.B.
S579	防党参 (生)	〃 [〃]	G.B.
S157	北子苑	<i>Aster tataricus</i> L. f.* [Compositae]	
S158	木香	<i>Inula racemosa</i> Hook. f.* [〃] <i>I. helenium</i> L.* <i>Saussurea lappa</i> Clarke*	川木香 (<i>Inula racemosa</i> Hooker f.), 土木香 (<i>I. helenium</i> L.), 広木香 (<i>Saussurea lappa</i> Clarke)
S171	大小薊	<i>Cirsium</i> sp. [〃]	常用中草药手冊参照。
S160	漏芦根†	<i>Echinops latifolius</i> Tausch* [〃]	薬材学では漏蘆。
S172	山棕根 (S173と同物)	<i>Trachycarpus excelsa</i> Wendl. ? [Palmae]	性状および生薬名から推定。
S173	山棕根 (S172と同物)	〃 [〃]	〃
S161	川百步	<i>Stemona tuberosa</i> Lour.* [Stemonaceae]	
S580	萱草根	<i>Hemerocallis fulva</i> L.* [Liliaceae]	
S162	麦冬	<i>Ophiopogon japonicus</i> (Thunb.) Ker-Gawler* [〃]	
S163	天冬	<i>Asparagus cochinchinensis</i> (Lour.) Merr.* [〃]	
S 97	川一金	<i>Curcuma longa</i> L.* [Zingiberaceae] <i>C. aromatica</i> L.* <i>C. zedoaria</i> (Berg.) Roscoe*	薬材学では郁金。

No.	生薬名	性 状	
S 54	升麻 (飲片)	外皮黒色, 内部灰白色, 重質, 柔軟, S184 緑升麻の飲片, 薬材学の升麻とは同名異物。	
S184	緑升麻 (生)	外表淡灰かっ色, 大部分の外皮は除去されている。質は硬いが折れやすい。 写真18 緑升麻	
S 96	香排草	径約 8mm の直根と細根をもつ根茎および茎からなる。外表はかっ色, 質は柔らかく軽い。 写真19 香排草	
			

No.	生薬名	性 状	
S 99	芝 蘭 根 (カット)	根 および根茎からなる。灰かっ 色，葉残基はきわめてせんい性。 ラン科植物？	
S581	芝 蘭 全 (生)	S 99と同物，柴かっ色で円錐状の 茎残基があり，葉痕による横紋お よび縦溝が顕著。 写真20 芝蘭全	
S168	川 山 朮	木質，皮部は黒かっ色～灰かっ 色，横じわがある。木部は黄かっ 色～暗かっ色。 写真21 川山朮	
S177	當 年 根 (S178と同名)	木質，外皮かっ色，薄片となって 剝離，皮部と木部も分離しやす い。木部は黄かっ色。 写真22 當年根	
S186	黄 蛇 根†	皮つき薄木片。外皮は黄色でやや 厚くコルク様，剝離しやすい。木 部に年輪様模様がある。 写真23 黄蛇根	

No.	生 薬 名	性 状	
S190	一 条 根	木質，外皮灰かっ色，縦溝がある。木部は灰黄色で年輪および線が顕著。 写真24 一条根	
S192	紅 蛇 根†	皮つき薄木片。S 186 黄蛇根に類似するが，色はやや濃い。導管小孔顕著。 写真25 紅蛇根	
S471	大 疔 瘻	木質，外皮灰黄色（根），黒かっ色（茎），木部はち密。 写真26 大疔瘻	
S473	黄 枝 根	皮つき木片，茎混入？ 皮部は淡黄土色でやや厚い。木部は黄白色で極めて硬い。 写真27 黄枝根	

No.	生薬名	性状	
S475	刺刀根	木質，外皮は灰黄色，縦溝がある。皮部はやや厚く，木部は黄色。 写真28 刺刀根	
S480	柑根片†	木片，黄白色，偽年輪がある。軽質，混入する皮はかっ色で極めてせんい性。 写真29 柑根片	
S575	薔薇根†	木質，外皮黒かっ色，横紋および小突起がある。木部はかっ色でち密。きわめて硬い。 写真30 薔薇根	
S577	山蒼根†	皮つき薄木片，外皮黒かっ色，薄い。木部灰かっ色で年輪模様がある。芳香がある。 写真31 山蒼根	

No.	生 薬 名	性 状	
S578	克 面 風†	木質，外皮灰 かつ 色，縦紋 がある。木部は かつ 色で極めて硬い。 写真32 克面風	
S579	千 斤 秤†	皮つき木片，外皮黒 かつ 色。断面に黒 かつ 色の樹脂様物質が付着，木部は せん い 性。 写真33 千斤秤	

謝 辞

本調査にあたり種々便宜をはかって下さった京都大学薬学部部長上尾庄次郎教授，シンガポール大学 Dr. H. Keng，日本薬学会，大阪市隆泰貿易株式会社鄭岳氏ならびに呉健行氏，シンガポール益興貿易公司李懷德氏ならびに黄德祥薬行その他の方々に感謝いたします。あわせて出国に際し 御便宜をはかって下さった京都大学木島正夫，宇野豊三両教授に感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 南京药学院药材学教研组編（1960）『药材学』
 中国医学院药物研究所等編（1960）『中药志 I, III』
 D. Hooper. (1929-30) *The Gardens' Bulletin*, Vol. VI
 I. H. Burkill. (1966) *A Dictionary of the Economic Products of the Malay Peninsula*.
 G. A. Stuart. (1911) *Chinese Materia Medica*.
 F. P. Smith. (1871) *Materia Medica and Natural History of China*.
 K. R. Kirtikar and B. D. Basu. (1918) *Indian Medicinal Plants*.
 R. N. Chopra (1932) *Indigenous Drugs of India*.
 R. N. Chopra, et al. (1956) *Glossary of Indian Medicinal Plants*.
 E. J. H. Corner (1952) *Wayside Trees of Malaya*.
 『常用中草药手冊』（1970）
 牧野富太郎（1961）『新日本植物図鑑』
 中国科学院植物研究所南京中山植物园药用植物組編著（1959）『江苏省植物药材誌』